



1945年6月29日の岡山空襲で焼失したカトリック岡山教会

一九四五年（昭和二〇年）六月二十九日未明、岡山大空襲の日、あの日の事は何十年経った今でも涙がにじみます。当時十三歳だった私は、岡山市奉還町通りで餅屋をしていた父と母、十四歳の姉、十一歳の妹、六歳の弟と六人家族で暮らしていました。

真夜中の事、階下から「空襲だ！早く起きて」と母の大きな声でびっくりして飛び起きました。（中略）母親を探す叫び声や走り廻っている人やらで修羅場と化していました。見ると私が手を引いていた弟も転がっています。そうこうしていると母がやって来て、慶ちゃん（妹）が死んだと言います。色白だった妹は顔はきれいなのに、お尻のたぶが半分とんで即死だったそうです。母が弟を抱き上げると全身火傷で、虫の息の下から「お水お水」と言うけれど断水して水もないので母は、からからの喉から唾を出して飲ませてやったら間もなく弟も息を引き取りました。（中略）

現在の平和は尊いものです。戦争はむなしいものです。戦争を知らない若い世代の人に少しでも分かってもらいたく、重い筆をとった次第です。（岩井里子「岡山大空襲」より抜粋）

2019年まで「レクイエムコンサート・平和への祈り」として開催して参りましたが、「ピースコンサート・平和への祈り」と改めました。

1945年6月29日に起きた岡山空襲の犠牲者をはじめ、すべての戦争犠牲者を悼み、平和への願いを新たにしようと2008年から毎年開催しています。

さらに近年、世界各地の紛争によりたくさんの人々が犠牲になっています。音楽と共に世界平和を祈り、苦しむ方々に寄り添うことができればと願います。

なお今回集まった募金は、2024年1月1日に発生した能登半島を中心とした大地震により被災した方々への支援関連活動のために、カリタスジャパンを通して寄付されます。ご協力よろしくお願い致します。

